

## 世界のために、ここから動き出す

新居浜市立別子中学校 3年 三浦 あすか

私は、別子山という限界集落の地域にある全校生徒十五名の中学校に在籍しています。私の家は、新居浜の市街地にありますが、小学六年生の頃、別子山に興味を持ち、別子中学校に入学し、寮生活をしています。

中学校で、別子山やSDGsについて学習しました。そこで気づいたことは、高齢化や過疎化の問題は、現在日本が抱えている問題ですが、途上国でも発展していくと、いずれ、この問題に頭を悩ませるのではないかとということです。見方を変えれば、別子山は今、世界最先端の課題に直面していることとなります。そう考えると、私たちが別子山活性化に取り組むことは、世界の未来のために、私たちができることなのだと思います。

そして、中学二年生の春、私はその課題解決のためにあることを思いつきました。それは、「地域の方と共に野菜を作ること、地域の方と共に未来を創る」ということです。「野菜」と「未来」には、一見、何のつながりもないように見えますが、地域の方の野菜づくりに関する知識や経験と、中学生のアイデアや体力を生かすことで、地域活性化に向けて進んでいくことができると考えました。この考えの中には、SDGs17番目のゴール「パートナーシップで目標を達成しよう」があります。野菜づくりを通じて、お互いの強みを発揮し、別子山の地域課題を解決することができれば、私たちが世界に一つの道を示すことができると考えたのです。

中学三年生になった春、学校の先生方や地域の方にご協力いただき、「別子ファーム」という名前で野菜づくりに取り組みました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、学校が休校と再開を繰り返し、スタートする予定だった四月もいつの間にか過ぎてしまいました。休校中、無理だと絶望したこともありましたが、報道で不安や恐怖を抱きながらも、前を向いて世界中のみんなのために頑張っている多くの方々の姿を見て、私たちも立ち止まらずに、前を向いて動いていきたいと思いました。そして、休校が明けた五月の下旬、ようやく「別子ファーム」を始めることができました。今では、野菜もすくすく育ち、地域の方と一丸となって取り組んでいます。

私は、「THINK GLOBALLY ACT LOCALLY」という言葉の大切さを「別子ファーム」を通して実感することができました。現代では、世界が抱えている問題を「他人事」のように見過ごしてしまっていることがあります。しかし、その問題は自分の住む地域で起こっていることです。そのことをしっかりと認識し、「自分事」として真剣に考え、行動することができれば、世界をよりよい場所にすることができると私は考えます。だから私は、「別子ファーム」から、別子山、日本、そして世界の課題を解決するアイデアを提案します。世界中の人々が今よりも過ごしやすと思える世界を創るために、あなたはどうか動き出しますか。